

第1回 生駒市総合計画審議会第一部会

1 日 時 平成25年7月1日（月）14：00～

2 場 所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 出席者

（委員） 中川委員、森岡委員、永野委員、井口委員、大野委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、
岡村企画政策課企画係長 加納企画政策課係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

（1）各分野の検証

①No. 142 行政サービス

（部会長は中川委員に決定）

【事務局】 それでは、部会長には中川委員に御就任いただきます。恐れ入りますが、一言御挨拶をいただきたいと思います。

【中川部会長】 この検証作業は、御経験のある方が森岡委員と私だけだが、新しいお三方にも期待したいなと思っている。どうかよろしくをお願いします。

【事務局】 それでは、ここからの議事については部会長により進行をお願いします。

【中川部会長】 まず、所定の時間の割り振りを確認したい。長くても2時間以内には終わるという目安とすると、5項目で大体1項目当たり24分程度ということになる。説明に事務局が二、三分なのでその残った時間をこの5人で割り振ることになると、最後に判定する時間も要りますので、大体、24分として、20分見当で1人4分程度しか残らないということになる。まずは、No. 142、行政サービスから始める。担当課より説明をお願いします。

【担当課】 （検証シートについて説明）

【中川部会長】 各委員から御意見等をお願いします。

【森岡委員】 2-1の指標評価の中の電子入札について。実施率が100%になっているが、入札は全て電子入札になっているのか。問題は、電子入札の実施率が100%になったからそれで良いのではなく、電子入札を実施することによって、ここに書かれている公平性の問題、透明性の問題がどう確保されたんだというところがその実施率に表れなければならないと思う。例えばどういう応札率、地域的に広範囲にわたってなっているとか、あるいは応募業者が過去に比べてこれだけ増えているだとか、その辺についての説明をお願いしたい。評価はC。

【大野委員】 生駒市の行政サービスはかなり進展していると思う。コンビニ交付などは私としては非常に評価できるんじゃないかなと思う。ただし、1つだけお伺いしたいが、それをすることによってコストはどうなったのか。例えば発行するコストが上がったのか下がったのか、あるいはそれによって人件費が浮いたのか、そういう評価はされているのか。評価はBに近いC。

【井口委員】 代替指標を設定した経緯について教えていただきたい。もう1つは、3-2の地域活動等の役割分担と3-4のA部の仕事目標の評価基準について。評価はC。

【事務局】 代替指標については、これまで検証を実際行ってきた中で分野の進捗状況をはかるには適していないというものがあったり、政策の転換などを考慮して、その当時の市民委員会とか市民懇話会のほうで諮っていただいて、原課のほうでふさわしい指標を設定してもらいましょうということになった。

2つ目については、経常的、実施計画事業と、AとBと2つあるが、部の仕事目標については、年度当初に部長が設定した目標に対して達成度を数値化している。例えば60%という目標があれば、それを上回っていたらA評価、それから、その60%前後であればB評価。ただ、実際、取り組みはやっているけども全然達していない場合はC評価ということで、それぞれ、これを、1年後の年度末が過ぎたら、部長以下、この評価基準に基づいて評価をしている。

【永野委員】 コンビニ交付はすごく斬新で、評価は高い。ただ、年配の方などパソコンができない人に対する配慮はどうなっているのかと思った。評価はC。

【中川部会長】 委員の質問に対する回答をお願いしたい。

【担当課】 電子入札については、生駒市における入札が全部電子入札という意味ではなく、一部事務用品など各担当課が独自にやっている入札もあり、それについては、まだこのような電子入札という形で入れかわっているということではない。契約検査課の方で

執行している入札が全て電子入札というところで御理解いただきたい。それについての波及効果としては、電子入札に変えて応札率が上がるということではなく、やはり案件の内容であるとか業界の状況によって状況は変わる。影響として一番大きいのは、事務的な能率のアップということで、コンピューターの中で自動的に落札者というのを決めていくというようなことでやっており、効率的に事務の執行ができる。

【森岡委員】 問題は、今年度100%という形で実施をしたことによってどういう効果があったかということ。例えば、予定価格と落札価格の平均値を比較することはできると思う。そこが公平性なり透明性ということにつながってくるのではないかと思う。だから、市民の方が見ても、生駒市はこれだけ努力をしていますよと、こういう形で電子入札をした結果こうなっていますと示さないと分かりづらいと思う。その辺の工夫を今後はぜひお願いしたい。

【中川部会長】 次回以降は電子入札を達成するという単純な指標じゃなくて、その結果、これほど透明性が上がりましたとか一定の公平性が上がりましたという附随指標みたいなのを示していただきたいということ。

【担当課】 コンビニ交付のコストについて。例えば住民票を3万枚窓口で出した場合とコンビニで出した場合、窓口の場合が大体3万枚で1枚当たり360円かかる。これは人件費が大きい。コンビニ交付だと254円になる。今現在、人件費への効果として、23年から24年で職員1名が減になっている。

【大野委員】 では、そういうようなことも積極的にアピールしたらどうか。これを導入することによってこうなりましたというのは皆さんにお伝えしたら、よりいいんじゃないかと思う。

【中川部会長】 今日の皆さんの御意見は、また持ち帰って検討していただくということで。評価は全員C。そこそこ目標は達成されているが、まだ改善の余地はある。

②No. 112 情報提供・公開

【担当課】 (検証シートについて説明)

【森岡委員】 最近の広報は、数多くの情報が提供されたり、宣伝媒体もたくさん入っており感心をしている。ただ、ここも形として見えていない。こういうものをこれだけ発行しましたとか、そのために、例えば費用の軽減を図るためにこういう工夫をしながらいろんなものを作っていますとか、そういうところの評価というか、もうちょっとそういう

意味で自己評価を積極的にすべきではないかなと思う。B評価についてはそれでいいが、そういう意味ではもっともっと今取り組んでいる中身を分かりやすくしていただきたい。まだ自分たちだけの目線で見ているような気がする。だから、市民が見ても、結局まだはっきり分からない。市民目線ということは、自分たちのやっている仕事がどれだけ市民に分かってもらえるように説明するかということだと思うが、そこがよく見えない。評価はB。

【大野委員】 市のホームページのアクセス件数が増えているということは非常に良いことだが、1つ思うのは、パソコンを操作できる人、全員が全員できるわけじゃないので、恐らくかなり偏った人が何回もアクセスしている、その件数になっていると考える。どれだけの市民の個人がアクセスしているのかなという、どれだけ伸びているのかなというのは、ちょっとこの数字そのままのみにしていいものかなというのは1つ気になるところだ。

それと、いろんな情報提供をされているが、もう少し自治会と一緒に頑張って積極的にいろんな広報をしていただいたら良いかなと思う。それと同時にモニターも、広報モニターを設置、アンケート調査云々と書いてあるが、これも自治会単位で、その組織を使っているモニターあるいは要望というのも聞かれたら良いのではないかなと思っている。

それと、もう1つつけ加えるならば、広報紙は分かりやすく評価できると思う。評価はB。

【井口委員】 皆さんおっしゃるように、市民にとっては、「広報いこま」というのが非常によくなったなと感じている。しかし、市民満足度調査の結果を見ると、余りいい評価が出ていないというところが気になる。この場合は、大概CかDかというような感じになっていて、これは個々にニーズが非常に違って、何か自分の関係のないものをぱっと見ないでさっと流してしまう、全般的に見たら何か1つぐらいあったなという感じで見ていると、こういうアンケート結果になるんじゃないかなというように感じる。

だから、各ニーズに応じたような広報の仕方というのを少し丹念に追った方が良いと思う。私たちは、関心事については市役所へ書類をもらいに行ったりいろんなことをするが、大体の人は、「広報いこま」しか見ていない。もっと工夫をして、いろんな観点で、自分らがどうしたら参加できるか、しやすいのかというようなことをもう少し、PRされたほうが、市民の参加という、市民活動というものをプロモートするために良いと考える。評価はB。

【永野委員】 ある時期からすごく広報が変わった。生駒の広報はものすごく分かりやすいし、内容的にも、こちらが知りたい内容がたくさん載っているの、本当に頑張っていらっしゃるんだと思う。

ただ、情動的に自分が知りたい情報は見るが、余り関係ない情報が載っている部分かなり自分の中で多いんじゃないかなと思う。だから、なかなか一から最後まで熟読することではなく、自分が欲しい情報のところはしっかり見るが他は大体やっぱり素通りしてしまう。

また、広報は自治会員には自治会から配布しているが、非自治会員の方にも、広報はここに置いてあるので、非自治会員の方はこちらの方で入手してくださいということもお伝えいただきたい。評価はB。

【中川部会長】 全員ほとんどBということになった。

まず、森岡委員のおっしゃった市民目線に立った評価の仕方というのがあるんじゃないだろうかということだが、これはやっぱり意見交換をもうちょっとした方がいいかなという気がするので最後に議論したい。

それから、自治会等との連携はどうなっているのかという。検証シートの中には、結構、自治会を通じて回覧しているみたいなことが感じられる。例えば3-2の役割分担状況のところ、自治会の協力のもと、広報紙を配付しているというのがあるが、これ以外に何かあるのかということ。

それから、井口委員の、こっだけ頑張っているように思うけど、3-1の市民の役割分担状況で、「余り取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」などという市民の評価がなぜこんなに低いんだろうか、それを上げるにはどんな方法を考えておられるかという点について、まず、この2点をお答えいただきたい。

【担当課】 自治会様の方には、広報紙以外にもポスターを配付していただいたり、あと、回覧物も配付していただいている。広報紙配付を業者に委託すると、1配付につき配付料金として1回10万円、これを例えば奈良県がやっているような新聞折り込みにするとうち年間約1,800万円になり、大分コストが上がってくる。これを本当に市のお金でしていいのかどうか、そのままそれとも自治会様の方に負担していただくのかどうか、それはずっと広報広聴課としては最大の検討事項である。非自治会員様の方については、市の公共施設、それから市内にある近鉄の駅、それから郵便局、銀行、病院、コンビニの方で全て設置している。あと、10人以上1組になっていただけたら、そちらの方にも配送させ

ていただくことができる。

【中川部会長】 市民評価が低いのはどうしてか。

【担当課】 できる限り、行政情報、例えば先日だと人件費を削減したとか、そういうことも、できるだけ分かりやすく市民の皆さんの視線に立ったようにお伝えしているつもりだが、まだまだ努力が足りないのだと思う。

【森岡委員】 市民満足度の設問で、「市民が知りたい地域や市」というのを省くと「市民が知りたい情報を早く、簡単、正確に入手できている」ということになる。そうなれば、もう少し評価が上がってくると思う。だから、市民目線というのは、自分たちが知らせたいことだけ広報に載せるのではなく、例えば、秋になったら、生駒はこんなきれいなところがあるとか、こんな歴史的な背景があるとか、そういうことを通して市民が行きたいところは手近にあるんだということが知られるとか、市民が知りたい情報を載せるのが効果的であろう。そうすると、また今度もそういうのが載っていないかなと思い、興味のない人も広報を開いてくれるだろう。行政側の都合で広報を発信するのではなく、市民目線で広報を載せていくということが大切である。市民満足度調査の結果というのは十分に受けとめていただいて、いわゆる市民目線とは何かというのをもっともっと工夫していただいて、行政側が知らせるだけじゃなくて、もっとよく見ていただけるような、工夫も必要だと考える。

【永野委員】 観光ボランティアについて広報に記事が載っていて、それを利用したいなど思ったがどこに連絡したらいいのかなというのが分からなかった。あと、1回限りの掲載でなく、観光ボランティアでこういうことをやりましたよというのを載せていただくと、こういうことが観光ボランティアの方でできるんだということが分かる。そういう方法もあると思う。

【中川部会長】 評価はBに決定。今、各委員さんがおっしゃったことを精査していただく上での1つの物差しとして、何でも広報に掲載する必要はないと思う。例えば国民健康保険の料金のお知らせや加入世帯に対する通知などは、広報に載せる必要はなく各担当部局が持っている広報機能で通知したら良い。そうではなく、全ての市民に対して知らせていくべき広報、その中でも、特出しして、今月はこういう特集、今月はこういう特集と12カ月もしくは24カ月でそれをきれいに政策的に配分していくということも必要かと。そのときの書きぶりとして、今、各委員がおっしゃったように、市民から見たときこう知りたいのではないかという書き方をしていくということをもっとしてほしいと思う。

どうしても行政側というのは市民にお知らせしていますという義務を果たそうとして、何でも取り入れる危険性がある。その結果、何を言っているんだか分からなくなる。今月はこういう特集をしています、そういうことで強弱つけることが大事だと考える。

③No. 111 市民協働

【担当課】 (検証シートについて説明)

【森岡委員】 市民向けの参画と協働のパンフレットを作成したということでb評価ということを書かれているが、これから市民にどう理解されていくのか、まだ進んでいない段階で、今はパンフレットを作成しただけということになると思う。この先市民にどう理解されて、参画と協働の市民自治の運動がどう進んでいくかということが重要だという点で、これからどうなるのかが重要だと考える。同じNo. 22の下の市民投票条例の制定の問題で、これは書き方が達成状況というところに未達成の理由と一緒にたにして文章が回答されているんじゃないかなという感じがする。上3行が達成状況で、昨年1月に市民投票条例案の提言を受けてということが達成状況で、実際にはそういう提言を受けたが自治法改正の審議が先送りになってストップしているという点は、未達成の理由になっているんじゃないかと。だから、達成されていないという、表現上はそういうことになるんじゃないかなと思う。評価を出していただく上でその辺をもう少し書いていただければありがたかったかなと思う。以上から、これからという課題ということになってくるのを見れば、BではなくCだと考える。

【大野委員】 シートを見る限り、あんまりいい結果ではないと思う。行政の施策が市民の方にどう伝わっているかが問題だと考える。情報提供だけ、あるいはこういうことをやりましたよというだけじゃなくて、実際に市民の人がそれを受けてどうしたかということについては関係がないということになっているような結果になっているので、その辺を何かもうちょっと一工夫というか、新たな活動に加えていただきたいなと思う。もちろんタウンミーティングでは1回100名ぐらいの方が集まって、いろいろディスカッションもされているが、どれだけの効果があるのかなというのが、疑問に感じる。評価はB。

【井口委員】 全体から見て、アンケートによる客観的な指標はあまりよくないと思う。1目指す姿の進捗度というのを見ても分かるが、「どちらともいえない」とか「分からない」という御意見が非常に多いということは、関心のある人というのはすごく見ているけども、関心があるんだけども、一般の人は何かやっているなというような感じで、このテーマに

ある主体性を持って、主役となって参画して協働をやろうという雰囲気というのはもうちょっと醸し出す方法はないのかなというように感じが見受けられる。それと、3-2の地域活動の役割分担状況というのは、このところだけではないが、とにかく、地域が、自治会であろうがどこであろうが、あるいは事業者とか、自分で地域活動としてやっていこうというような主体性を持ったやり方というのが本当にできているのかなという感じがする。皆さん方がこうしたことをやろうといろいろ案を出されておやりになることが多くても、自治会が本当にこうしてやっていこうというようなことが、一部はやっておられると思うが非常に少ないのではないかと思う。先進事例や他市の事例などをどんどんやって、あなたにもできますよというような形でやっていくのが良いと考える。地域活動を主に担っていただくと考えられる、定年になった人、あるいは子育てを終わったという人の中には、本当に何をやっていいのかなと分からないという人もいる、本当にこれはやったら良いな、やりたいなと思わせるようなやり方というのが何かないのかなと思うが、そこを考えていただいたら非常にありがたいと思う。私も何回か行くが、ららポートでも随分熱心にやっておられてすごく頭が下がる思いだが、一部に終わっているのではないかなという感じがしている。評価はC。

【永野委員】 市民が主役となってつくる参画と協働のまちにはなかなか達していないかなというのが実感。私は自治会長をしているが、自治会関係をやっている市とのかかわりというのはあるが、一会員になると全くこういう市民推進活動課とかにも来ることがほとんどないんじゃないかなと思う。どういう意味合いでこういうまちづくりの目標になっているのかなというのがすごい不思議だ。自治会としては理解しやすいが、市民は参加していないだろうというのが率直な意見になる。いろいろやっていただいて、努力とかをしていただいているのは本当に自治会にかかわっている者としてはありがたいなと思っているが、「市民が」となると、ちょっとやっぱり難しいかなと思う。評価はC。

【中川部会長】 各委員からの御意見に対して、担当課から説明をお願いします。出てきている意見は、自治会への依存度が高過ぎる、それとの連携協調だけが参画、協働とどうもイメージされがちで、個人市民あるいは個々の市民へのアプローチという点では熱意が足りないのではないかという御意見である。

【担当課】 参画と協働というものについて、市民の方々に訴えかけるというのは大事だが、やはりそれが相互して行政職員の中においても参画と協働というものはどういったものかということの認知と理解を進めることが必要だと考える。森岡委員がおっしゃった

パンフレットについては、例えば行政の職員向けにも参画と協働の指針を作成し、理解を深めていきながら、より効果的に事業として取り組んでいきたいと思っている。

また、自治会の方にいろいろご協力とかお願いしているものが多いというのも、私たちも十分に認識している。多様な課から多様な依頼が来ており、その中においては、自治会の会長の御苦勞の軽減というのも図らないと大変だということ分かっているのです。例えば連絡文書であれば、これまで任意に送付させていただいていたところを月2回の広報紙の発行に合わせて一括して送付させていただくことによって、ご負担の軽減を図ったりしている。

【森岡委員】 まちづくりの市民の参画と協働というのは、自治会を通じて、市と自治会とが協働しながら参画と協働ということである意味、生駒市は十分に果たされていると思う。しかし、市民自治の市民向けパンフレットも作成しただけにとどまっている。今求められているのは、もっと幅広い意味での市民との協働というか、ただ単に自治会とだけの協働じゃないということが言われているので、そういうところから見てまだ十分ではないと思う。評価はB

【中川部会長】 私の評価はB。意見を整理したい。自治会、町内会への過重な依存をもって協働というわけにはいかないということ。今後は、NPOとか個人市民、ボランティアなどの開発、掘り起こしを一層努力する必要がある。特に、先ほど御指摘あった団塊の世代、定年後の人たちをどううまく導くかが非常に注目される。評価はBとする。

④No. 121 地域・市民活動

【担当課】 (検証シートについて説明)

【森岡委員】 いろんな形で、自治会も含めて努力されているということについてはそのとおりだろうと思う。評価はB。

【大野委員】 この市民実感度評価について、地域別や年齢別で分析を行っているのか。各自治会によって違うと思うが、最近自治会活動について無関心な人が増えてきている。特に新興住宅地なんかにおいてはそういう傾向が非常に強く、それをいかにして打破していくかというのが非常に悩む。それを打破する1つの突破口が、市民自治協議会ということだと思うが、これは行政主導で設立しなきゃだめだ。その辺をもう1つ考えて進めていただきたい。これは非常にいいことで、小学校区単位で地域における密着した問題点、課題を解決していく、もっと言うなれば、例えば条例提案をすとか、何かできるような

形ぐらいまでのものを目指していただきたい。だから、それはある程度行政主導で、もちろん自治会というか市民も協力するが、旗振りを強力にやってもらわないと進んでいかないと思う。評価はB。

【事務局】 アンケート調査について。20歳以上の方を無作為抽出して、3,000人の方にアンケート調査をしており、地域・年齢など全体のバランスを考慮して抽出している。

【井口委員】 自治会を活性化させるという課題は非常に難しい問題だと思う。魅力度とか、あるいは勧誘が足りない、あるいは1年ごとに幹部が変わるということにより、どうも自治会に入っている意義が少し足りないと思う。評価はC。

【永野委員】 ららポートってあんまり皆さん御存じないと思うので、もう少しららポートの存在を皆さんにお知らせしたらどうかなと思う。

また、1年交代で自治会会長をするとわけが分からないまま1年間が終わってしまう。もう少し自治会長に対するマニュアルなどを整理していただきたい。評価はB。

【大野委員】 一言つけ加えたい。自治会長が1年交代で代わるということをサポートを強化していく体制として、組織としての市民自治協議会というのをつくられたらどうかと思っている。

【担当課】 市民自治協議会について。おっしゃっていただいたように、今の自治会は役員のなり手がいないとか、高齢化になってきている、また、そういったことから、自治会の仕事の負担がかなり出てきているというような現状が、生駒のみならず、いろんなところで起こってきている状態。そういったものを、ボランティア、NPO団体、地域の方々、学校の関係者であったりいろいろなそういう活動をされている方とタッグを組み合わせながら、協働しながら、小学校区単位のエリアを1つの範囲としていろいろなものを解決していこうという施策として、市民自治協議会というものを今提案させていただいている。この市民自治協議会については、自治基本条例の中において位置づけしており、あくまで自発的な動きというものも必要だと考えている。中核的な役割を担っていただく主体ということでは、地域の地縁の団体の大きなものである自治会は切っても切り離せない立場にあると思っている。今は、壱分小学校区・生駒南小・南第二小学校区・鹿ノ台小学校区の方において、一定そういったものの設立を目指して活動というものがなされている。市民自治協議会の設立に向けて、今年度から重点的に私どもの課の方においても取り組んでいきたいと考えている。

【大野委員】 推進の仕方は、マニュアルを作っただけで済ませようではありません。行政側が主体的に専任担当者をつけて、事務局長みたいな形で入って行って、旗振りですべてを推進していかないと、難しいと感じている。

【中川部会長】 評価はBとする。各委員からの御意見を今後の取り組みについての中に入れていただきたい。市民自治協議会結成に関する政策的取り組みを一層強化する必要がある。自治会加入に関しては、私は、自治会そのものに加入促進を働きかける施策は、Bの経常的実施計画事業の12番、13番に書いてあること以上は無理だと思う。自治会の生命線は加入率のみであり、それに対して行政がこのような自治会加入のチラシを市民課窓口で配付してくれたり、開発のときに加入を働きかけるなどの取組を行っているのは非常に珍しい。行政に自治会加入をもっと勧めなさいというのは無理になってきているから、住民自治協議会システムでバックアップを自治会にしていくという作戦だ。行政部局は、市民自治協議会を全ての窓口として通していかないと、市民自治協議会でせっかく集まった意味がなくなってくる。そういう行政側の改革も迫られるだろう。

⑤No. 141 行政経営

【担当課】 (検証シートについて説明)

【森岡委員】 目指す姿の設問2の部分は、設問が分かりにくい。「市役所の各部署において、マネジメントサイクル、PDCAが定着し」という用語がアンケートをとった人たちにどれだけ理解をされているのかどうかという点で見れば、非常に疑問が出てくる。これを代替するような指標か何かが必要になってくるのではないかと思う。評価はC。

【大野委員】 進捗状況の部分については、順調に推移しているのではないかなと思う。ただ、タウンミーティングなどで意見があった場合、どんな意見だったら取り上げて、どんな意見だったら取り上げないのか、またそれについてのフィードバックはされているのか。評価はC。

【井口委員】 目指す姿の進捗度の市民実感度評価で「どちらともいえない」と「分からない」が非常に多いということは、設問の仕方が悪いのかなと思う。必ずしもこれは実態をあらわしていないと思うので、改善の余地がある。評価はC。

【永野委員】 指標No.1の総合的な住みやすさの満足度というのは、皆さん何をもって満足度ということで書かれているのかなと思う。生駒は今割と少子化の方に力を入れているようだが、高齢者に対する住みやすさというのが大分低下しているように思っており、

この満足度は私には良く分からない。評価はC。

【中川部会長】 各委員の質問に回答いただきたい。

【担当課】 市民満足度調査の設問について。できるだけ目指す姿というのを正確にとらえ比較できるようアンケート調査するため、総合計画に挙がっている目指す姿をそのまま載せた。ただ、それだけでは分かりにくいという御意見をいただいたので、できるだけ注釈を増やした。設問の内容については、来年度実施する際に工夫させていただきたい。

【中川部会長】 大野委員がおっしゃった、広聴業務における意見や要望にはどう対応しているのか、についてご回答いただきたい。

【担当課】 タウンミーティング等で御意見をいただいて、その場で御回答できるものはしてるし、できない部分については、後日メールなどを送らせていただいている。それはききみみポストでも同じで、回答が必要な方についてはさせていただいている。内容に対しては、市の施策と合致しているかどうかなどを見ているので、御意見をいただいても、こういう理由でできませんと御回答をさせていただくのもある。非常に参考になって、また検討しますというのもあるので、一概には言えない。

【中川部会長】 広聴課に来る一般広聴と、各部局に来る直接広聴などもある。だから、それを全部合算して統計処理するのはなかなか難しいだろう。

本日の会議は以上で終了する。